

大山ダムの防災操作

～梅雨前線による降雨において河川水位上昇を緩和～

【梅雨前線による洪水】

筑後川水系赤石川の大山ダム(大分県日田市)の流域では、梅雨前線の影響による断続的な降雨があり、7月23日13時から24日13時までのダム流域平均の総雨量は159mmとなり、特に、24日6時から7時までの時間雨量は38mmを記録しました。

【大山ダムで最大約90m³/sの防災操作^{※1}を実施】

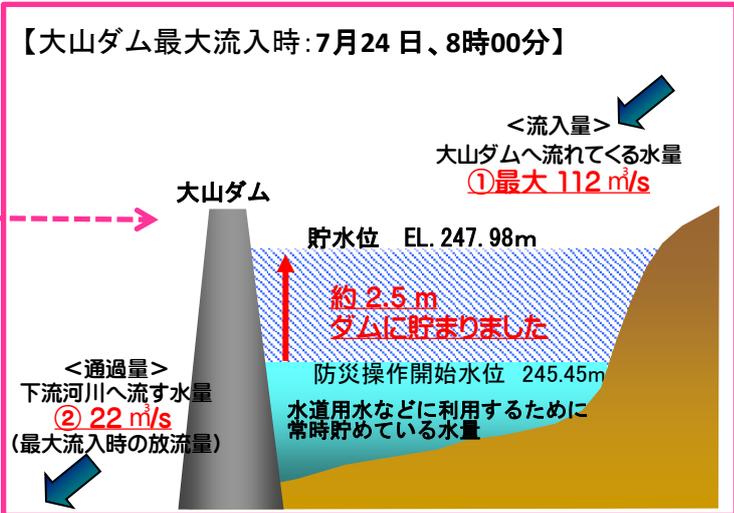
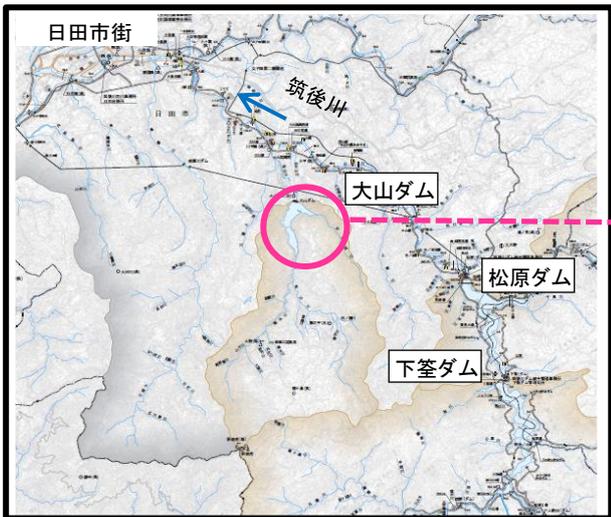
この洪水に対し大山ダムでは、ダムに流れ込んだ水のうち、約122万 m³^{※2}をダムに貯めて、川の水を減量させて河川の水位上昇を緩和させました。(添付資料2参照)。最も多くダムに水が流れ込んだ時(約112m³/s)に対し、ダムから流している水の量は22m³/s でした(低減量約90m³/s、低減率約80%)。

※1 「防災操作」とは、大雨の際にダムに流れ込む水の一部を一時的にダムに貯め込むことで、ダムから下流に流す水の量を減らし、下流の川の水位を低減させるダム操作です。

※2 貯留量は24日4時から14時までの値

今回の発表は速報値であり、数値等は今後の調査により変わることがあります。

大山ダムの操作状況図

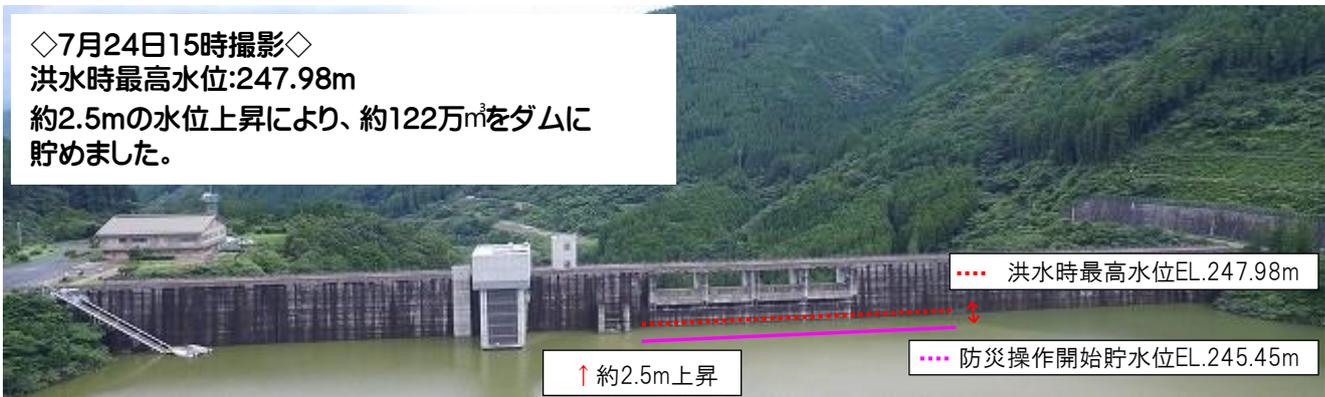


ダムへ流れてくる水量の約 8 割低減させて流しました。 ※約 8 割≒1 - (②÷①)

値は暫定値のため、確定値ではありません

防災操作による大山ダム貯留状況

◇7月24日15時撮影◇
洪水時最高水位:247.98m
約2.5mの水位上昇により、約122万m³をダムに貯めました。



大山ダム防災操作図 令和2年7月23日~24日

資料2

